

同窓会報

(第50号)

発行: 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長 林 孝二郎
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551
印刷: 有限会社 プリントピア
TEL. 043-233-9671

ご挨拶



同窓会長 林 孝二郎
(昭和39年卒)

千葉高同窓会の皆様、厳しいコロナ禍の中で新しい年を迎えることとなりましたがいかがお過ごしでしょうか。

私、昨年より同窓会長をお引き受けいたしました。各地域の同窓会、職域同窓会等にお邪魔し、同窓の皆様と懇談できることを大変楽しみにしておりましたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大でほとんどすべての会が中止に追い込まれてしまいました。その中で1月の第70回生成人記念同期会、定時理事会、2月の総会・懇親会がかううじて開催できたことは幸いでした。

毎年開催してきました母校での卒業生講演会やインターシッブ事業協力なども中止となりご尽力いただいた先生方も落胆していることと思います。

このような状況でしたので、昨年度8000部印刷(前年より500部増刷)した同窓会報も全部は配布できずに終わってしまいました。さらに今年になってからも感染の拡大は治まらず、昨年から準備を進めてきた第71回生の成人記念同期会が中止となり、また定時理事会、そして同窓の皆様が年に一度、一堂に会する総会・懇親会も中止にせざるを得なくなりしました。同窓生との再会を楽しみにしておられた方、また開催準備に頑張っておられた方に

は誠に残念な結果となりましたが現下の状況を考えるとやむを得ないことでありご理解のほどお願い申し上げます。

コロナ感染の終息はまだ見えませんが、一日も早く同窓生の集まりが開けるようになることを心から願っております。その時には皆様とゆつくりと懇談できることを楽しみにしております。

さて、このような中であつてうれしい出来事もありました。今年、千葉市が市制100年を迎えるにあたって記念に作成された出版物がいくつかあります。

そのうち、100周年記念漫画は千葉市在住の漫画家、本宮ひろ志さんの画によって千葉市の歴史を作った先人たちの活躍を誰にでも親しみやすく紹介しています。その表紙を飾り冒頭に描かれているのが母校の社会科教師だった武田宗久先生です。

今では千葉市の貴重な財産となつて加曾利貝塚ですが、1960年当時、宅地開発で破壊

の危機にありました。武田先生と千葉高郷土研究クラブの生徒たちの保存のための活動が貴重な歴史資産の保存に大きく貢献したことが描かれています。

武田先生は創立100周年記念誌の第1部100年の歩みも取りまとめられており、同窓の皆様にはよく知られていると思いますが、市民にこのような形で広く知っていただけたことは本当に良かったと思います。

もう一つの千葉市100周年記念誌には作家の海堂尊さんのスペシャルメッセージが載っていました。その中で彼が昭和54年ごろの千葉高卒であることを初めて知りました。同窓生は様々な分野で活躍しております。俳優では市原悦子さんや宇津井健さんがよく知られておりますが、ウィキペディアで調べたところ、作家として知られている人は他の分野と比べて少ないようです。

昨年、私の所に昭和29年卒の松本生さん(すむ)から1冊の本が送られてきました。松本さんは市原悦子さんと同学年でペンネームは葉津川久、本業はお医者さん、現在は埼玉県で社会福祉法人の仕事をしていてということですが、幻冬舎から昨年出版された「紙」というその小説は映画を見ているようでとても印象に残り

会報第50号 もくじ

ご挨拶	会長 林 孝二郎	1
校長報告	学校長 加藤 俊文	2
就任ご挨拶	副会長 池田 知行	3
会報によせて	副会長 永田 忠以	3
事務局近況	事務局 阿佐 幸雄	3
会報寄付者一覧		4
支部だより		5
OB会だより		7
学年短信		9
令和3年度 定時理事会報告		17
葛城人脈⑥		18
学校近況報告・葛城だより		20

ました。出版までの紆余曲折のいきさつは千葉大医学部の「あのな同窓会報」の今年1月号に掲載されているようですので興味のある方はご覧ください。海堂さんもそうですが、小説家一本やりでなく兼業で小説を書いている人は同窓生の中でも存外多いのかもしれない。

さて、昨年1年を振り返りますと、同窓会にとっても本当に苦しいことの連続でした。今年はずでに総会、成人記念同期会などが中止になったこともあり、同窓会報の印刷部数も昨年より減らさざるを得ないのですが、多くの皆様にお届けして同窓の絆を確かめることができればと考えております。本年も同窓会の運営に変わらぬご協力のほど、よろしく申し上げます。

県立千葉中学校・高等学校近況



校長 加藤 俊文

千葉高校同窓会の皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御支援を頂いておりますことに感謝申し上げます。

令和2年4月に着任いたしました加藤です。高校は創立143年目を迎えた県内屈指の伝統校に赴任したことに驚きとともに責任の重さをひしひしと感じながら半年余り過ごしてまいりました。

本年は、新型コロナウイルス感染症拡大の関係から同窓会の各支部等の会合も悉く中止となる中、少ないながらもお会いできた皆様からは、いつも母校に対する誇りと愛着、そして後輩たちへの期待を強く感じることができました。お会いできる次の機会では、膝を交えて千葉高への熱い思いを聞かせていただけるものと楽しみにしております。さて、同窓会報第49号以降の

学校の近況を報告させていただきます。令和2年は、新型コロナウイルスのパンデミックが世界中で発生し、その影響は本校にも大きな影を落としました。3月からの実質3か月間に及ぶ休校は、生徒や職員にとって精神的にはもちろんのこと、身体的にも様々な負担を強いることとなりました。

多くの祝福の中で挙行されるべき第七十二回卒業証書授与式は、大変残念ながら保護者並びに来賓の参加をご遠慮いただく中で体育館において呼名をせず、代表への卒業証書の授与と校長式辞のみの簡略した形式とせざるを得ませんでした。年度が明けた入学式も同じく体育館で式辞と代表生徒の宣誓のみとし、そのまま5月末までの臨時休校に入っていました。この新入生は、中学校の卒業式もそして高校の入学式も非常事態の中で行われ、人生における節目としての感慨を心に留めることもできず、「今までの自分は何だったの

か」「これから高校生としてどこでどう生きていくのか」など、自らのアイデンティティが揺れ動く思いと不安があったのではと推察されます。

学校が再開されてからも通常の生活はすぐには戻ってきませんでした。これまで「自主・自律」の元、高校生がまさに一所懸命に行ってきた様々な生徒活動も大きな変更・制限を余儀なくされました。とりわけ部活動においては運動系・文化系を問わず、毎日の活動が全く行えない状況に陥ったのはもちろんのこと、高校生になってからの集大成を発揮する舞台である各種大会も殆どが中止となつてしまいました。この虚しさや悔しさを何処に誰に向けることもできずにいたと思います。8月に入り一部代替の大会が開催され、出場した3年生もいましたが、多くはすでに引退しており、予備校に又は教室に足を向け次の進路に向けて切り替えるしかなかったと思います。

大会(兵庫県)に出場することになりました。また、囲碁部も女子団体が県内大会を上位で突破し関東大会(千葉県)への出場を決めました。さらには書道部の2年杉田さんが県内の審査を通過し、令和3年度の全国高等学校総合文化祭(和歌山県)に出品できることになったことは、うれしい報告でした。

一方で、例年9月に一般公開している文化祭(千秋祭)、11月の京都を班別行動するはずの修学旅行も、苦渋の判断でしたが中止をせざるを得ませんでした。そのような中、10月には体育大会を何とか開催することができました。千人を超える生徒・職員の「3密」を避ける、中高連携の行事とすることを念頭し、午前に中学生と高校1年生、午後高校2・3年生と分割形式で実施することとし、加えて、ソーシャルディスタンスを保つことのできる競技を生徒自らが開発するなど、実行委員会が随所に主体的な工夫を施した行事とすることができました。まさに、この様な状況だからこそ開催しようとする「自主・自律」の精神が生きた行事となりました。

また、10月に入り、推薦入試に挑戦する生徒と面談する機会

に恵まれました。その中で、千葉高校の特徴は何かという問いに、全員が、「重厚な教養主義」について語っていました。文理の偏りなく全ての教科・科目の基礎基本を身に付け、加えて、その発展的内容にも触れることにより学問の神髄に近づいていく。その中でバランスの取れた、そして厚みのある教養を身に付けようとする思想やその校風を、胸を張って話す姿に感動すら覚えました。これは、高校・大学と新設されたばかりの学校の出身である私にとって、143年間、脈々と続いてきた千葉高の歴史と伝統が為せるものであると畏敬の念を禁じませんでした。

これまでも同窓会の皆様には多面にわたり御支援を頂いておりました。また、学校をめぐる環境が大きく変化する中、学校にとって本当にありがたいことです。本校の生徒が文武にわたる日々活動できるのも、同窓会の皆様の多大な御支援があるからこそであると思います。学校は、教育活動の更なる発展を目指し、生徒・職員一丸となって精一杯努力をして参ります。同窓生の皆様には、今後とも本校の教育に対する御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

副会長就任のご挨拶

副会長 池田知行
(昭和54年卒)

令和2年(2020年)1月18日に開催された同窓会定時理事

会にて、新たに副会長に選任されました昭和54年(1979年)卒の池田知行と申します。昭和35年生まれの若輩者ですが、宜しくお願い致します。

千葉高時代は合唱部に所属し、今日に至るまで合唱活動は

続けております。早稲田大学を出て千葉銀行に勤務していましたが、数年前に銀行役員を退任し、現在は関連会社で働いております。

同窓会総会には十数年前から顔を出させて頂いており、職場の千葉高同窓会長も務めておりましたが、引き続き微力ながら同窓会の運営に尽力していく所存ですので、宜しくお願い致します。

同窓会報に寄せて

葛の花会会長 永田忠以
(昭和37年定卒)

世界中で目に見えない敵との戦いがあるなか、同窓会をはじめあらゆる催しが自粛・中止せざるを得ないことは残念であります。

「持続は力なり」と葛の花会も

細々ながら続けて参りました。

昨今、定時制は閉課してありますので、新規の入会者はおられませんし、会員の諸先輩、同輩、後輩も高齢化が進む中、その数が減り、また、参加することが難しい方々も出てきている状況です。そこに、今回のコロナ禍が

加わるにより、これまで継続してきた会が開催できないことは断腸の思いであります。さらに、来年は開催できるののだろうかなど、このコロナに対し、見通しの立たない状況に不安を感じています。

さて長年、葛の花会の顧問をしていただいていた伊藤敏隆先生が、昨年4月にご他界なされました。伊藤先生には、千葉高の卒業生(昭和24年卒)でもあり、美術の先生として母校で教鞭を執っておられました。また校内にある美術館の創設者にて、初代館長(現名誉館長)にも就任なされました。多くの卒業生の絵画彫刻の収集展示を行い、その集大成として本を出されるなど功績を残されました。退職後は、伊藤隆月の雅号のもとに華道池坊の先生として、多くの弟子をお育てになり、展示会などでは先生の大作をよく拝見したものです。ここに謹んでご冥福をお祈りするとともに、これまでのご尽力に感謝申し上げます。お知らせする次第です。

「面影を思い浮かべてつくづくと逝きにし人を偲ぶ今日かな」と偲歌がありますが、当会の及川勝寿初代会長、奥井康雄二代会長ら諸先輩をはじめ、今は亡

き人々との思い出は尽きません。同窓と思ひ出話をする場としても、再び会が催せる時が来ることを願い、私もいよいよ齢八十

同窓会事務局の近況報告

同窓会事務局 阿佐幸雄
(昭和35年卒)

令和2年度同窓会活動は、1月成人記念同期会、定時理事会そして2月の同窓会総会・懇親会までは行えたものの、その後は地域・職域の葛城会、各クラブOB会そして同期会など、ほとんどが開催できませんでした。

母校の休校が解かれた後も、学校内外の各種行事は制限され、同窓会として支援・交流をする機会もありませんでした。その状況が端的に表れたのが同窓会報の印刷残部数です。

毎年2月の同窓会総会を皮切りに各種同窓会集会で配布してきた会報ですが、鈴木前会長の発案で個別送付先を拡大し、送付費用に充てるため寄付のお願いをすることで配布部数の拡大

を迎えようとしています。皆様のご支援ご協力を得ながら、葛の花会が続く限り盛り上げて参りたく思っております。

に努めました。この結果、地域・職域葛城会や熱心に交流している学年だけでなく、クラブOB会等からも新たに寄稿をいただけるようになり、また配布部数も増える状況となっております。これには同窓会名簿データベースが整備され、送付に活用されるだけでなく、送付状況分析や費用対効果の大きさも計数化できました。

令和2年度は2月の総会での配布に続き、3月には3500部の個別郵送を完了しました。また集会は中止されても、昭和22年卒や三十年会(昭和30年卒)など同期の方々との連絡の中で、進んで会報を配る学年もありました。

令和3年度の同窓会総会は、変則的な常務役員会でやむなく中止を決め、新成人のこの時にぜひとも集まりたいとの総意で

準備していた成人記念同期会も中止となりました。多くの同窓会集えばかりか、同窓会本部の正副会長、委員長などが揃う常務役員会も開けませんでした。今回は役員の改選もなく、懸案事項も少なかったのは幸いでした。

同窓会名簿DBの現状

平成28年12月に完成した同窓会名簿データベース(以下DB)は、29年より運用を開始し、明治14年卒から昨年3月卒業の令和2年卒までの、37899名が登録されています。

当初DBは、同窓会総会や各年度の同期会への対応に焦点を当てて作成しましたが、その後、地域葛城会支援のため、複数住所からの検索・抽出が出来るようになり、今年度も新元号の令和を元号項目に入れたり、検索項目をより細分化するなど将来に備えた改定を行いました。

今後は、同期会だけでなく、地域や所属クラブなどもデータ登録があれば検索できるようにしたいと思いますので、地域葛城会やOB会等での利用希望があれば事務局にご相談ください。

名簿委員のご推薦を

昨年度から各年度の信頼でき

る管理者にIDとPWを発行し、そのIDとPWで年度の名簿へのアクセスを許可しています。

年度の名簿管理者(名簿委員)には、同窓会の沢田名簿委員長が各自と面談のうえ、DBの主旨とマニュアルを理解していただいた上で名簿委員に任命します。

名簿委員は、DBの同期名簿データの修正作業を行います。DBは個人情報データの塊ですから、常にセキュリティに留意することが求められます。

各年度の名簿委員は、同期会案内の発送データのダウンロードやDBサイトからメールの一斉送信を行うことができます。

会報配布と寄付状況

平成28年からはじめた個別配布を昨年も行ないました。会報送付の折に寄付依頼を行いました。多くの皆様のご賛同を頂き、多額のご寄付を頂いています。

ご寄付のお陰で、発行部数や配布数も増えました。また、多くの方の目に触れることで内容も充実しています。

会報の発行部数と個別配布数、寄付人数と寄付金額は下表のよう

同窓会報の個別配布・寄付状況

年 度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
会報号数	第49号	第48号	第47号
発行部数	8,000	7,500	6,500
個別配布数	3,500	3,500	2,610
寄付人数	176	173	192
寄付金額	866,000	1,020,000	1,122,000

※ 令和3年度の第50号は、6,500部発行、個別3,500部の予定

会報寄付者一覧

1万円以上の寄付者名は太文字

(敬称略・卒年順)

【昭和14年】 吉川 裕男
【昭和20年5卒】 西村 元秀
【22年卒同期会】
【昭和26年】 秋庭 尚正
久山 敬
【昭和27年】 深沢 規夫
小仲井 誠次
吉田 猛
渡辺 誠治
中村 作二
【昭和28年】 岩田 裕

仁茂田 豊生
安藤 伸治
高梨 義雄
【昭和29年】 川崎 房枝
堀 登志也
竹内 規矩子
【昭和30年】 穴倉 正胤
山下 庸明
【昭和31年】 赤塚 光朗
牧之瀬 強
高澤 正
【昭和32年】 市川 豪一

佐久間 将夫
瀬田 寛子
白井 日出男
小川 金壽
前迫 美知子
【昭和33年】 瀨山 俊一
片倉 透
磯貝 正治
榎本 弘尚
土屋 富士雄
根岸 修子
高仲 達也
【昭和34年】 小林 英夫
長島 満
藤田 二美子
米田 喬
石井 豊信
【昭和35年】 腰塚 直己
高橋 淳一
長谷川 禎一
鎌田 修
富澤 誠二
【昭和36年】 斎藤 浩一
伊藤 康史
北島 康史
【昭和37年】 中野 義澄
土屋 博紀
大野 岑生
押尾 衛
藤田 彰
間山 素行
大木 映一
駒井 隆子
堀野 雅子

【昭和38年】 宮原 忍
宮本 四洲雄
岩崎 千恵子
【昭和39年】 林 孝二
工藤 房子
角田 正健
中里 重幸
市東 宏子
佐久間 忠夫
土肥 哲英
村杉 雅敏
石橋 明子
長谷川 和敏
林 茂範
松田 薫
岡本 泰生
加藤 健
【昭和40年】 元榮 川常
藤倉 國男
伊藤 兼六
廣瀬 彰
沢田 茂
木村 光男
藤井 浩
西川 芳雄
宇田川 民江
和田 正民
【昭和41年】 千葉 右子
西川 哲男
【昭和42年】 松崎 昇
嶋野 勝美
【昭和43年】 豊泉 俊郎
秋葉 隆三

山本 和夫
時田 清
【昭和44年】 長谷川 恵子
斉藤 勉
菅谷 義範
富永 正道
西山 恒夫
松浦 健夫
鈴木 真
石橋 康正
梅沢 敏徳
藤平 真一郎
【昭和45年】 武田 浩一
高倉 史朗
浪方 日出男
【昭和46年】 鍋倉 辰彦
池田 玲子
宮下 潔
湯川 昌彦
佐藤 鼎
山田 秀二
【昭和47年】 矢澤 孝文
平岡 映子
山室 三枝子
【昭和48年】 宮内 仁
大塚 眞由美
【昭和49年】 羽田 徳治
梁瀬 朗生
子安 和弘
森田 友治
藤縄 和代
【昭和50年】 星野 智史

【昭和52年】 竹澤 容子
【昭和53年】 小口 学
【昭和54年】 須藤 知子
【昭和55年】 白井 護
【昭和58年】 鈴木 洋人
【昭和60年】 倉持 宏明
【平成2年】 小林 靖茂
【平成4年】 佐藤 雅信
稲田 恵美
【平成9年】 大門 伸之
【平成12年】 木村 大輔
水野 佑子
依田 美佐恵
吉本 一紀
【平成13年】 影山 祐子
【平成15年】 山脇 有紗
平澤 智彦
【平成23年】 小林 和貴
清水 翔
【平成26年】 橋本 幹彦
【平成31年】 江口 航志

支部だより

☆東京葛城会

事務局長 桑野雄一郎
(昭和60年卒)

令和2年10月9日(金)に予定しておりました東京葛城会の総会・懇親会は新型コロナウイルス感染症の影響により残念ながら中止を余儀なくされました。また、例年春、秋及び年末に開催しておりました幹事会も同様に中止となりました。

昨年の総会では野球部の歴史を振り返る企画が好評でしたが、先日テレビ番組でラグビー部が紹介されたのが東京葛城会の関係者の間でも話題となりました。

毎年ご出席をいただいている校長先生からは、部活動の活動状況もご報告いただいています。最近では弓道部の素晴らしい活躍ぶりが紹介されることが多く、参加者も文武両道に励む在校生の姿を頼もしく感じています。

県立千葉高は進学校という目で見られがちですが、もう少し

運動部の活躍ぶりにも注目が集まることを願っています。

その一方で、私自身は文学部や写真部に所属していましたので、文科系の部活の活動状況も気になっています。

新型コロナウイルスは終息の目途が立たず、教職員や在校生の皆さんも様々な不安を抱えて学校生活を過ごされていることと思います。卒業生として、また東京葛城会として、できる限りの支援をしていきたいと思っています。

☆佐倉葛城会

事務局長 荒井茂夫
(昭和45年卒)

令和元年度、第18回佐倉葛城会は前会長の片岡先生が秋の叙勲、瑞宝中綬章を受賞いたしましたので、花村副会長より記念品及び花束の贈呈がありました。

写真は贈呈の様子で出席者も28名と非常に盛り上がった総会になりました。特に会場は今回から場所を変更し、掘りごたつ方式のテーブルでしたので足が自由に伸ばすことができ、足、腰への負担が少ないため高齢の方からは非常に好評でした。



令和2年度は、依然厳しいコロナ禍の中、佐倉葛城会総会には中止せざるを得ず、会員の皆様には中止のご連絡と同時に会計報告書、同窓会報(第49号)、令和2年度大学入試 集約結果をお送りいたしました。

令和3年度は佐倉葛城会も20年目を迎えようとしています。現在、「佐倉葛城会20周年のあゆみ」と称する記念文集の企画を検討しています。創設以来ご尽力のあった会員の皆様に原稿をお願いし記念に残る立派な文集を作りたい所存です。令和3年

☆東金葛城会

幹事 岸本雅邦
(昭和39年卒)

はコロナ騒動も一段落し盛大な20周年記念佐倉葛城会が開催されることを心より願っています。

私個人の経験で恐縮ですが、慶事なので寄稿させて頂きます。

私が関係する東金ばやし保存会(千葉県無形民俗文化財)の山車とお囃子が、令和元年11月9日に行われた日本全国の伝統芸能が集う「天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典」のパレー



天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典
令和元年十一月九日(土)

ド(皇居前内堀通り)に参加し、演奏と勇壮な引き回しを披露しました。

皇居前に集まった大勢の見学者に東金の伝統芸能(東金ばやし)を披露する事で、東金の魅力と東金市の名をPRする事が出来ました。

☆成田葛城会

会長 松田徹之
(昭和39年卒)

昨年来、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、日本のみならず世界中が大きな打撃を受けており、その影響は計り知れないところとなっております。

当葛城会におきましても例年11月から12月に開催しておりました総会等を会員の健康と安全を第一に考慮した結果、中止としたところです。平成十五年に当会が発足して以来、初めての中止ということで大変残念に感じております。

さて、成田市は成田山新勝寺や成田国際空港を擁する観光都市であります。平年でしたら数々の行事や祭りで賑わいの絶えないところでもあります。



特に、毎年4月中旬に開催される成田太鼓祭は、成田山新勝寺と表参道一帯を舞台に全国から約50団体、延べ15000人の和太鼓演奏者達により2日間にわたり盛大に開催されます。

また、7月上旬に開催される成田祇園祭は、成田山新勝寺の御輿(みこし)と町内の山車・屋台、10台が3日間にわたり市内を引き回され、踊りとお囃子の共演が行われます。例年40万人を超える見物客が集まる初夏の成田を代表する一大イベントです。

今年こそ、コロナウィルス感染症が終息に向かい、成田の祭

り、そして成田葛城会が開催できるようになることを切に願っております。

☆養信会(葛城会市原支部)

会長 鈴木雅博
(昭和33年卒)

令和元年9月から10月にかけて市原市を襲った、台風15号を始めとする一連の災害から1年が過ぎました。わずか一か月半の間に起きた風水害は、近年経験したことのない甚大な被害を市原市にもたらしました。特に農家への打撃は大きく、市原市の検証結果では、農業被害額が約17億円にも上ることでした。

そうした中、明治時代末期から市原市姉崎地区を中心に栽培され、「姉崎いちじく」のブランドで市場の高い評価を得ているイチジクが、先日皇室に届けられたとの報道がありました。昨年の出荷量は、一昨年の半分程度に落ち込み、今年の収穫を心配していたので、とても嬉しいニュースでした。

一方、今年は市原市内でも新型コロナウイルス感染者が、断続的に確認され、感染に対す

る不安や緊張が日々続いています。養信会においても、今年開催を予定していました総会を、残念ながら見送りました。

このたびは、総会開催のご報告が叶いませんでしたが、以前同窓会報でお伝えしました地質区分「チバニアン」が正式に決定され、市原市が国際的にも広く知られることとなり、地元民としては多くの方々に足を運んで頂きたいと思っています。

まずは、新型コロナ禍の早い収束を切に願うとともに、皆様のご健康をお祈りいたします。
(令和2年秋)

☆船橋葛城会

世話人代表 中山泰正
(昭和42年卒)

私達船橋葛城会は常々「社会の変化に対応して同窓生が望むような会を目指し、独自性を発揮しよう」を旨とし、今まで活動して参りました。令和2年の社会のありさまに鑑みて、今日、会

は四つの方向性を考えています。
第一は従来通りの会合です。総会前のミニ講座、懇親会後半の百人一首等を用いた「お楽し

み抽選会」も続けていくつもりです。

二つ目は小グループでの活動です。この数年開催している春と秋の散策や見学企画です。可能であれば千葉高生ならではのコースを取り入れた一泊旅行も考えています。又総会以外の場で卒業生の活躍や知識に接することが出来る講義会も企画中です。特に若い世代の新鮮な講義に期待を寄せています。

三つ目はこれからの時代に即する交流です。例えば15分程度のミニ講座を何本か録画してYouTubeを使って発信する。地方で活躍している会員に季節の便りを画面を用いて願います。会長や世話人達のブログを作成する。又各自の活躍を動画で撮りオンラインで配信する。フェイスブックの活用等々です。

四つ目は在校生との交流です。当然学校に許可を受けての上の事ですが、船橋葛城会に各クラブ活動の発表に場を提供する。現役大学生向けの就業(就職ではない)相談会の実施、卒業生(特に大学生)による高校生への進学や補講の手伝い、生徒向け

のミニ講座等々、ひいては彼らが自分の子供達を千葉高校に志望させるきっかけに。後に同窓活動への関心や数十年後の同窓交流の礎になればと考えています。

☆千葉市役所葛城会

会長 小早川雄司
(昭和54年卒)

千葉市役所葛城会は、新入会員2名が加わり、84名の会員がおります。

例年、本会は千葉高同窓会総会の翌週を目途に開催していましたが、会員相互の交流の観点



等から、役員で協議し、開催時期の見直しを図ることとしました。

時期は、多くの支部と同様に秋頃を視野に入れて検討しておりましたが、令和元年の台風15号・台風19号・10月25日大雨による災害への対応が発生したため、開催時期を再検討することとなりました。

その結果、令和2年1月24日に14人の会員参加のもと何とか開催することができました。場所は、昨年と同じく、宝川絃司さん(平成12年卒)のお店「TREASURE RIVER book cafe」(トレジャー・リバー・ブックカフェ)で開催しました。

会は、会長挨拶、新役員の紹介の後、乾杯で懇親のスタートとなりました。美味しいお酒と料理を楽しみながら、年に一度ではありますが、世代を超えて、高校時代の話や仕事上の意見交換などにも華が咲き、会員相互の交流を深めることが出来ました。

この時点では、現下の状況を想像することはできませんでしたが、一日も早く、この新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、再び、千葉市役所葛城会を

開催する日が来ることを願うものであります。

☆千葉銀行葛城会

会長 小野雅康

(昭和60年卒)

千葉銀行葛城会は、今年も新入行員を迎え、現在、現役員126名、OB12名の総勢138名の会員が在籍しています。例年7月に京成ホテル・ミラマールにて、会員70名程度が参加する総会を開催しておりますが、今年はコロナウイルスの影響によりやむなく中止となりました。

例年は校長先生にご臨席賜り母校の直近の様子をご紹介いただくとともに、千葉高校合唱部の皆さんに合唱曲をご披露いただいておりますが、今年はどうしても叶いませんでした。また、若手からOBまで集まり世代を超えて親睦を深める貴重な場となっておりまして、その機会を失ったことは非常に残念であります。

このコロナ禍の危機を乗り越えて、千葉銀行葛城会総会を再開できる日が来ることを心待ちにしているとあります。

OB会だより

☆水泳部OB O G 会

葛城水泳会会長 宮下賢一

(平成2年卒)

昭和5年の旧プール造成に伴い創部されたと伝えられる本高水泳部は、今年90周年を迎えます。時代に応じて競泳、水球、再び競泳と主活動種目の変遷に伴い卒業生間の「縦の交流」が途絶えがちでしたが、4年前に復活。卒業直後の18歳から上は80



代まで「プール集合」を遂げ、以後毎年9月第1土曜日に総会を開催してきました。今年も多く卒業生に参加いただければと考えていましたが、二つの大きな試練に当たりました。

一つ目は、福原先生の異動です。先生は社会科の担任でありながら安房高校で水球国体準優勝の経歴を持ち、白水会(中央大学水泳部OB会)副会長も務められる専門家であり、生徒指導強化、競技運営、卒業生組織化などに尽力いただきました。今後は同じ社会科の青嶋先生が顧問に就任され、葛城水泳会の維持発展にご協力いただけることとなりました。

もう一つは、やはりコロナ禍です。葛城水泳会総会も安心して開催できる状態ではないとの判断により本年度は中止のやむなきに至りました。とはいっても、高校総体も中止となり3年生は不完全燃焼のまま引退となったことから、福原先生と副会長の吉田君(平成3年卒)、そして私の3名で母校を激励に訪ねました。幸いにも新人戦は無観客にて開催されとのこと。今

年は有望な選手も多く、コロナ禍明けの活躍に期待を込めて、プールの後にしました。

☆県千葉バレー部OB・OG会

会長 木之本省治

(昭和40年卒)

昨年は新型コロナ禍の影響で世界中が大変なこととなり、我々も非日常の生活を余儀なくされました。早期にワクチン、新薬が出てくれば安心し、落ち着いた生活に戻るのがですが、当面は自分自身を守ることが大切と思うこのごろです。

会の目的は会員相互の親睦と現役支援です。

2年に一度の第5回総会を11月に行う準備をいたしました。中止とせざるを得ませんでした。今年度は総会が出来ることを祈っています。特に公私にわたりお忙しい事とは存じますが20代・30代の方々の参加をお願い申し上げます。

現役支援は、バレー部のOBである田中先生達のご要望によりバレーボールをお贈りしました。しかし、練習及び試合数が大幅に減り、3年生には残念な

一年間となりました。

女子の部員も6名に足りず存続も危ぶまれています。顧問の先生方のご努力に依り、強いバレー部の復活を期待し、出来る限りの支援を続ける所存です。

本年度は東京五輪・パラリンピックが開催されコロナに打ち勝った素晴らしい大会になる事を祈っています。

「県千葉バレー部OB・OG会」でホームページを検索出来ますのでよろしくお願い申し上げます。

☆ラグビー部OB会

会長 長 英連
(昭和52年卒)

新型コロナウイルスで社会活動が一変する中、現役ラグビー部の活動も激変の波にさらされた。登校しての授業開始が6月、年初の新人戦でベスト4になり、11回目の関東大会出場が期待された春の県大会も中止になりました。

OB会も春、夏の定例総会中止の中、OB会役員と保護者会役員・先生の三者で6月からオンライン会議を毎月開催。「ウィズコロナ」で何が出来るかを面と



向かった以上に内容の濃い討議を続けた。全体練習ができない中での、筋トレ機器の更新・増強や新入部員の勧誘支援等々、即断即決即実行で、例年以上の支援策を実行してきた。その中でも、現役のモチベーションを高めるために、ラグビーの普及活動に取り組む、廣瀬俊朗氏の「#ラグビーを止めるな」に動画を投稿し、有名選手からコメントを貰うまでの成果を得えまし

た。

この取り組みは日本テレビの「真相報道バンキシャー」で報道されました。また、千葉テレビの第100回の全国大会千葉県大会の特集では、シード校として大きく取り上げられました。

3年生最後の大会に備え実戦経験を積むために、10月4日(日)、千葉高グラウンドで、OB戦を企画。若手OBが多数集まり、高校生同士以上の激しい体のぶつかり合いは、県大会への予行演習になった。県大会は感染対策で無観客試合のため、

観戦許可を得た保護者会会長他数名の保護者会役員と連携し、試合のユニチューブでのオンライン配信も実施。10月18日の初戦は、稲毛区役所に隣接した穴川コミュニティセンターで保護者・OB40名で観戦会も開催。もちろんオンライン配信では会場に來られない多数のOBが熱い声援を送った。

誰も経験したことのない未曾

有の環境変化の中でも、OB会の第一の目的である現役支援にまい進できたことを今後の活動の礎としたい。

☆野球部OB会

(葛城倶楽部)

会長 嶋田政明
(昭和49年卒)

野球部OB会の昨年度の活動ですが、1月11日(土)新年会&総会を96名の出席者で千葉セントグレイスヴィラにおいて行いました。

2月22日(土)千葉高野球部・東大野球部合同練習会を東大球場にて開催しました。b ut新型コロナウイルスの影響により3月に予定していた予餞会(OB会入会式)・5月の千葉商業さんとの定期戦(現役戦&OB戦)・5月と7月に予定していた千葉県OB野球連合会主催のゴルフ大会&野球大会・8月のお盆に千



葉高のグラウンドで行っていた世代別対抗OB戦・11月東京で働いているOB中心に集まっていた飲み会(東京葛城会・野球部OBゴルフコンペ・1月の新年会&総会は会員の安全面を考慮し中止としました。

OB会の活動は冬眠中でしたが、現役への支援は例年通り続

けました。野球用具(公式ユニホーム・ボール・ベース・レガース等)放送設備品・テントなど90万円ほどの支援をさせてもらいました。

今年度は少しでも多くの活動を再開したいと願っています。

☆剣道部OB会

会長 鮫島 啓一
(昭和53年卒)

今年2月に予定していた近隣高校剣道部OBとの親善稽古会の中止を皮切りに、世の中のコロナ禍対策のうねりに合わせてOB会のいろいろな活動が中止となりました。また、母校の臨時休校などもあり、当然のことですが現役部員たちも稽古を中断する状況となりました。

このような状況の中、全日本剣道連盟より感染予防のガイドラインが示され、夏頃より徐々に対人稽古、昇段審査、試合などが再開されています。

ガイドラインではマスクやシールドを面の中に装着することになっていますが、実際に装着して稽古をやってみると、想像以上に呼吸が苦しくなり動作

に大きく影響することを体験しました。今後は指導者を中心に剣を志す皆で新しい稽古のやり方を模索し、コロナ禍に負けない剣道に進化することを祈願しています。

コロナ禍の状況は安定しませんが、今後も剣道部OB会の活動再開に向けた準備が少しでも進むことを期待しています。一日も早く活動再開し、新しい環境での会員相互および現役部員との交流を楽しみにしています。

☆山岳部OB会

会長 中谷 和博
(昭和44年卒)

山岳部OB会活動の3本柱である、OB会会報の発行・OB会総会・OB会山行のうち5月のOB会山行・11月のOB会総会の2つが新型コロナウイルスの流行のために相次いで中止に追い込まれました。

本来、OB会の運営は役員会を開催し話し合いを基に決めるところですが、役員会に集まる際にも交通機関や会場での感染の危険性があり、メールで連絡を取り合いながら役員会を運営

しています。

さて、山岳部のOB・OG・現元顧問の先生を含めると250名余りの大所帯となりOB会総会の案内・近況報告のまとめ・OB会会報の送付等の事務が増え、これらの効率化が課題となってきました。そこで、今年はメールアドレスの分かっている方には往復葉書を使用せずメールで「①今後のOB会総会の連絡と近況報告はメールで可能か②OB会報は紙ベースを希望するかメールでよいのか」の2点を確認しています。メールアドレスの分からない方には従来どおり往復葉書で確認中です。返事も届いており事務量はかなり軽減されそうです。

転居に伴い、送付したOB会会報が毎年10部前後転居先不明で送り返されてきます。メールアドレスが分かっているれば送り返されることも無く届けられることを期待しています。

尚、今回のメールによる確認作業をはじめとして、毎年裏方の仕事を快く引き受けて戴いている諏訪園靖さん(昭和63年卒)の存在を申し添えます。

学年短信

●昭和22年卒

斎藤 喜久三

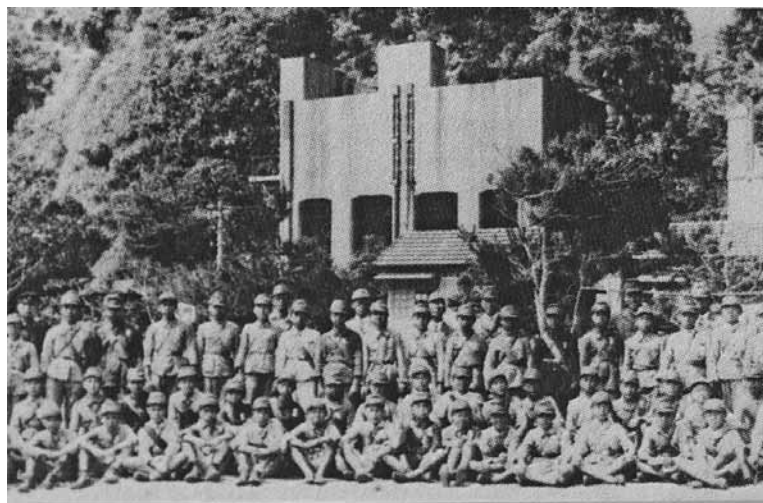
【卒寿を越えて入学時を回想】
地球上ではコロナウイルスが蔓延し、本年我々の同期会開催も自粛の方向で幹事諸兄と相談した。ついでには我々が在学中に体験した、現今ではとても信じられ無い、二度と無いような出来事も、この機会に後輩たちに伝える事にした。

先ずラグビー部の猛者、

高橋惟允君談話。我々は一九二九年生まれで、あの初の世界大不況の不景気男である。小学校の時に二・二六事件で驚き、昭和十七年に旧制千葉中学に入学したが、制服はカーキ色で合成スフのヨレヨレで、制帽は戦闘帽型。登下校はゲートル(巻脚絆)着用。やっと半月して慣れたと思ったら、突如空襲警報で敵機B25が低空で千葉市内に襲来し、校内騒然、あわてふためいて、初めての事で怖かつ

た。二年より援農で、暗渠排水作業や航空機の爆風除けの掩体造り。三年になると三八歩兵銃を構えての突撃訓練。その年すぐ通年動員となり、県下から男女八校の生徒で、船橋の海軍工廠系の工場へ。我々は雷電、零戦の機体部品造り。何年もの動員は不可とみたのか、翌年は学校工場の触れ込みで学校復帰。しかし、校舎は千葉県防衛本部隊となり、工場は母校の雨天体操場が部品製造所となったが、仕事が少ない、部品も少なくて生徒達は只々うろろするだけ





だった。その後、B29の空襲が激しくなり、市内の友人の中には被災し、行方不明となるものもあり、授業にはならず、戦後の片付け等をしているうちに終戦。翌年3月には四年卒業希望者は卒業。五年生になると軍学校(海兵予科、陸幼、予科練)からの復学組が現れ、世の中は百八十度転換した。戦後食糧難時代はものすごく、米の配給が20日も遅れて、校内では授業は当分休みになるなんて噂が出た

りした。配給を取りに行くと、大豆を搾った後のものや、乾燥したさつま芋の千切りなどで、学校食堂などもなく、じゃが芋、さつま芋を持って来る生徒も多かった。今、豪華な学食等をテレビなどで見ると、今昔の感ひとしお。その後、朝鮮戦争が始まり、すごい戦いが展開された。幹事諸兄も、忘れていた一部を彼に聞いて、70年前を思い出した。91才迄、よくここ迄頑張ったと皆で拍手した。

辛いことばかりではない。千葉中時代には、一年生は入学一ヶ月後に千葉県小湊へ。房総東線の汽車ボッポの旅行は楽しい思い出で、卒業後「33年目の修学旅行」として、元氣印45名が母校百周年を記念して、小湊へ再訪した。米寿の記念として作成した卒業50回同期会記録の、米寿記念写真集を見ながら話は留まる事をしない。現千葉中入学生と較べると、現中学生は夏休みにUSAに研修旅行をした

そうで、70年前の先輩達と時代の変遷を感じる。後輩達に頑張れのエールを届け

る。コロナで暗いニュースの年であったが、又悲しい報もあった。同期の中心的存在であった伊藤敏隆君で、同期会50回出席であったのに、ここ二年位体調を崩し、四月に逝去され、誠に残念であった。

彼は千葉中から芸大と美術島を進み、

卒業後母校に赴任し、教務の傍ら日本一の高校美術館を目指し、目的を達し、定年後も名誉館長として生涯尽力された事は誠に惜しむべきであった。

又陸上の雄、斎藤良二君が、体調が悪く三月に逝去された。

彼は陸上部の母校代表であり、卒業後は県の陸上委員として、元同総会長松戸先生の片腕として、自身で大型ビデオを購入して映像面でも大活躍をし、同期会のVTRも作成してくれて同期の先導者であった。

有名なオリンピックの選手の石井庄八先輩の愛弟子であった伴昭彦君も健康を害し、六月逝去の悲報を受けた、千中柔道部のスターが亡くなり寂しい限りである。

三君共に卒寿を越える人生の頂き迄健在であった事は大なる功績である。ここに同期一同冥福を祈るものである。

●昭和25年卒

矢島 肇

令和3年、同期は卒寿を迎えます。大分メンバーは減りました。同期の近況も会を止めて以来正確ではありません。惟、全

員健常者ではない様で、時々交す便りは病状報告に終始している様です。

昨年は、加えてコロナウイルスに明け暮れ、お互いの無事を確かめました。

当事者以外の若者は余り動じていない様ですが、高齢の我々は強い関心を持ちながらも、年齢に満足している人が多く見られます。

いくつになっても、健康で長生きは理想です。新聞等に見る死亡記事を見て、その原因が老衰に驚きます。我々より若い人達が多くなっている事にです。

新年に交す年賀状の数が急減しています。逝去者の外、健常者であっても遣り取りを止めます。唯一の近況報告の手段でしたのに、今はそれも叶いません。

賀状の発送枚数に寂しさを感じます。しかし、少ない枚数にも嬉しさを感じます。相手のいる事、そして何よりもこちらが書き送れる事です。

通常の人から届かない時は一抹の不安を感じます。大した報告もない昨今だけに年賀状は有難いものだと思うこの頃です。

呆けもせず書ける事に喜びを感じています。受け取り人のいる事に對し喜びを感じています。

賀状に一筆書き添えられていると最高の賀状です。届けられた年賀状を整理し、昨年の賀状を処理して今年が始まります。喪中のハガキ、そして賀状を一枚ずつ丁寧に読み返し、それぞれの方々のご多幸を祈っています。オリンピックの華やかな開催を待っております。近況報告まで。

●昭和27年卒(二七会)

会長 中村作二

我が二七会は、隔年に総会を開催して来ましたが、いつも会場にしていた「京葉銀行文化プラザ」が閉鎖することになったので、昭和27年3月1日の卒業式以来、66年後の平成30年3月1日に総会をやった、この会の総会は卒業しました。

4年前の80歳の時が102名、84歳の卒業の会に集まったのは72名で、この歳でこれだけ大勢集まったのが、この会の自慢です。後輩諸君!この記録を破るべく頑張ってください。

また、二七会ゴルフコンペは、昭和42年1月にスタートし元年10月に146回を数えました。当初は20〜30名の参加者でしたが、近年は10名前後でプレーを楽しんでいます。第150回コンペを最終回とし、令和3年3月に米寿記念ゴルフコンペを盛大に開催することを決めていきます。第1回から全員のスコア票を作成してありますので、最終回に全員に配布する予定です。80の半ばを過ぎて、プレーできる幸せは正に最高です。

●昭和28年卒

市原利久

私達昭和28年卒の会は、平成最後の31年4月に昭和47年より毎年開催していた会を閉会しました。

ここ20年間は、欠席者からも年会費を頂戴していましたので、母校の周年行事等にも応分の寄付をして参りました。

年会費の余剰金が若干ありますので、これからも細々ではありますが、事務局を存続させ運営していきたいと思っています。

●昭和29年卒(福の会)

中村浩紹

福の会恒例の6月千葉・京成ホテルミラマールでの懇親総会、12月東京・東武レバントホテル東京での忘年会は、いずれも中止となった。

思い起こせば、私たちは、千



葉中学校創立73周年目に当たる昭和26年4月9日、千葉第一高等学校の校門を嬉々としてぐり学校長安田裕先生に迎えられて、千葉第一高生としての薫陶を受ける幸運に恵まれた。

口髭を蓄えた安田裕先生は、「新人生を迎えて」として私たち新人生に對し次のように訓話され、その言葉は、福の会仲間達の人生訓となっている。(千葉一高新聞第9号抄約)

抄約)

人生の一生を通じ真に快哉を叫ぶ吉事は幾らもあるものではないが、本校入学はそうした嬉しいことの一つである。諸君等は、今まで手塩にかけ、丹精して来られた両親、先生方の人知れぬ御苦心、御努力の跡を振り返って感謝の念を強くして頂きたい。そして、楽しい嬉しい事の蔭には、いつも秘かに苦難が忍び寄って来ている事を考えて欲しい。

本校は、大学進学を標榜し高度の学力を身につけて実社会に活躍せんとする人のための学校であるから、

勉強に對しても社会の出来事に對しても真剣、必死に取り組む人となって欲しい。また、現在の社会における自分の地位、条件的に恵まれぬ多くの人達が一方に居ることを知り、自らの考え方、行動にしっかりとした立派な動き方をして貰わなければならない。

本校の長い伝統を通じて学んだ人々は皆一心同体本校建学の精神と歴史とを堅く守って社会人として居られる。諸君も本校生徒たる誇りを感じると共にその名に相応しい内容を充実し自己の名に相応しい内容を充実した人格を完成して行くよう鋭意努力し、先輩や社会の多くの方々の期待に応えるようにして行かねばならない。

三年間の生活が終生忘れ得ない良い思い出となり又諸君発展の有力な基盤となることの出来るよう力を協せて愉快な学園建設に進みたいものである。

諸君一層の自重自愛を望んで止まない。

「知性の裏付けある行動を望み、労苦の中に樂園を築け」

福の会懇親総会は、令和3年6月20日、京成ホテルミラマー

レで開催予定。元気で再会できることを願っている。

●昭和30年卒 (三十年会)

倉長 大塚 正明

令和二年の三十年会総会・懇親会について、例年の六月開催は早々と中止を決めた。年末に延期開催することも検討したが、結局見送った。問題は三年度で、六月開催にはこだわらず、ぎりぎりまで幹事会で検討する。

さて、三十年会では平成二十七年から独自の会報を発行、令和二年度で六号となった。会員か



らの寄稿を中心にこれまで四十人近くから近況報告が寄せられている。毎号新しい人を書いてもらい、三年度も発行する。

千葉一高卒業以来六十余年、年を経るごとに母校に対する想いは募り、卒業後歩んだ道は違っても、寄稿文の行間から共通した『絆』が滲み出ている。

令和元年の総会に参加された早川俊一先生が、スナックの二次会にもお見えになり、若々しくカラオケも歌われ「来年も来るぞ」と言いつて帰られた。

もうひとつ。三十年会事務局長の早川英明君が経営しているJ R西千葉駅近くのスナックが、仲間が何時でも気楽に顔を合わせる場所になっている。

毎夏の暑気払い、忘年会、カラオケ、囲碁など趣味の会、バレー部の会は月一回、バスケット部の会は年二回の例会の場になっている。更には三十年会の事務局の場として、幹事会や役員会なども開き、会の運営などについて話し合う大切な所でもある。

その早川君の店が、令和元年九月の台風十五号の直

撃を受け、二階の屋根が根こそぎ吹き飛ばされてしまった。職人の手当てがつかず、内装工事などすべて終わったのは二年四月だった。その間、雨の時も雨漏りする中、早川君は営業を続けてきた。

さあこれから、という時今度はコロナ禍である。二ヶ月間の営業中止を経て、六月から店は再開されたが、台風被害以来三十年会の仲間から励ましの電話、お見舞いなど多数よせられ、この災厄を通して「三十年会の仲間の絆を改めて感じた」と早川君は心から感謝している。

●昭和31年卒 (三一会)

山中 齊

2020年3月1日、この日は、我々、昭和31年3月、当時の千葉県立千葉第一高等学校を卒業した同志が、毎年集まる「三一会定例会」と定めた日である。

幹事である我々4名は、会場である「ホテルポートプラザ千葉」のフロントで、固唾を飲みながら待機していた。

いつもは、来客で賑わっているフロント周辺も、今日は、閑散

としている。

この会には、必ず仙台から、駆けつけてくれる、常連の藤村澄江さんも姿を現さない。

いつも遠い奈良から、はせ参じてくれる真下浩君も見えない。

ようやく参加者第一号が会場に現れ、幹事をほっとさせた。市内在住の松戸多良君である。

鎌倉から、赤塚光朗君も、この日唯一の県外からの参加者として出席してくれた。

しかし、待てど暮らせど女性陣の姿は見えなかった。

蔓延する新型ウィルスの影響は、大きかった。

異例の状況の下で今年度の「三一会定例会」は定刻、19名の男性だけの参加で開会した。

幹事の山中齊から、経過報告、代表の霜礼次郎から、挨拶と次年度の取り組みについての提案があり、懇親会に移った。

例年に比べて、趣の異なる例会となったが、会は、和やかに進み、定刻13時に、次年度の再会を約し、閉会とした。

この3月1日という時点ではこの後、わが国のみならず、全世界がコロナ禍に巻き込まれる大変な年になり、再会を約した次年度の定例会まで開催が危ぶ

まれることになろうとは、参加した我々の誰もが、予想も想像もできないことだった。

●昭和36年卒

高師弘子

同窓会報第50号おめでとうございませう。が、まずは悲しいお知らせです。私共の代表幹事田那村宏氏が定時理事会(1月18日)への欠席届を長谷川氏に連絡直後の1月19日に急逝されました。長い間リーダーとして先頭に立ち活躍され、整形外科医として患者さんに優しい先生でした。

36年卒は千葉高の歴史の中で『千葉一高(県立千葉第一高等学校



校』世代で学帽は凛々しい白線一本の誇り高き高校生でした。

学年の一番の思い出は還暦の時、創立125周年記念祝賀会の担当になった事です。その準備には冗談に「定期券が必要?」と言うくらい小まめに会合を重ね、その結果、800名近い卒業生の集いとなり、その事が一層学年としての絆を深めました。

昨年の秋、喜寿記念同窓会を菜の花プラザで開催し、散会の合言葉は『傘寿にまたお会いしましょう!』でした。修学旅行は箱根と日本平で関西には行けませんでした。10年ほど前の念願の



有志旅行写真です。

●昭和39年卒(39葛城会)

畠山 一雄

当学年は年間の活動を積極的に行っていますが、今年は新型コロナウイルス禍で恒例の下記行事が中止となりました。

・2020年4月5日 第5回
稀楽の会コンサートと同期懇親会

・4月6日 桜ハイック印旛エ



リアに松虫姫伝説と吉高大楼を訪ねて

また、5月11日開催の39葛城会ゴルフは遠隔地からの参加辞退がありました。感染対策を取り8名で実施しました。他にメンバー同士で個別のゴルフ、ハイクや登山等も行っています。

当学年ではメールアドレスの登録者は約90名います。4月の外出制限の時期には、何人かのメンバーからメールを通じて感

染予防に関する「ジョン・ホプキンスの論文」、国内大学の感染症の専門家の意見、「ドイツのメルケル首相の国民に対する訴え」等の紹介がありました。また「千葉テレビカラオケトライアル」の3段に挑戦する同期メンバーの元気な姿を放映する案内等もあり、参考になる情報交換が活発に行われました。

今後はコロナ対策を行ないながら下記行事が予定されています。(投稿時現在の予定)

- ・39葛城会ゴルフ 本千葉カントリクラブ 2020年11月16日参加者13名予定
- ・秋の紅葉散歩 市川市「水と緑の回廊」を歩く

2020年12月1日予定。

過去最大の行事は2013年11月17日に開催した卒業50周年の宿泊パーティでした(写真)。

約50名がオークラアカデミアパークホテルに集い、交流を深めました。閉会には千葉高のエネルギーや校歌で締め、大いに盛り上がりました。翌日はハイキングとゴルフのグループに分かれて楽しみました。

●昭和39年(定)卒

三井 芳夫

「思い出は、心の宝」

『東京オリンピック』が開催され、千葉市・検見川の東京大学生産技術研究所で「クロスカントリー」。これって何、知らなかった。近年では、昭和の森で、大会名は判らないが開催されている。でも、陸上競技は公平で面白い。

この年末に、宴会ソング『お座敷小唄』が大ヒット。「富士の高嶺に降る雪も、京都先斗町に降る雪も、雪に変わりが無いじゃなし、溶けて流れりや皆同じ」大人も子供も口ずさんだ曲です。

昨年三月に名簿の整理と確認に、千葉高同窓会事務局へ。葛

の花会事務局長、定時制38年卒志賀さんと二人で伺い、その日に佐藤先生とお話しが出来ました。その席で先生が、女子高の校長の時に、その施設で体育祭をしたと。私の記憶に間違いなかった。

四年生の時です。隣の席の女性Mさんが亡くなり、空いた席に編入のOさんも休みがち、そして休学。オレの隣は呪われているのか。当時の『夜間部』は、ほとんどがフルタイムで働いています。五時退社です。当然、一時間に遅刻、欠席。進級、留年の分かれ目です。

「十年前に葛城中からもう一人定時制に居ただろう」探して。で、居ました。もう一人だけでなく、消えたと思った女性のOさん、40年卒に。小原ツヤ子さん、岩手県在住。良かった。呪われてなかった。

思い出は心の宝
だけじゃなかった。

●昭和41年卒

同期会幹事 伝い 坂本 哲朗

【初詣は七福神巡り】

春は桜、秋は紅葉の小旅行の世話役の耳に入ったのが東京十



社巡り。早速挑戦。2013年の1月、東京23区の南から北、そして東、朝から夕暮れまでの初詣は忙しかったが、電車地下鉄を乗り継いでの長距離歩行が健康に良い。新年会が楽しい、また来年もと好評だった。それでは少しゆるりと詣ろうと、東京のあちこちに残り、札所も少ない江戸七福神巡りとなった。

翌年の1月15日第1回は深川七福神。昼過ぎに集合、芭蕉記念館に立ち寄り、ゆっくり歩いて3時間余り。恵比寿様を祀る薄暗くなった富岡八幡宮の横綱の碑から新年会の蕎麦屋へ向かった。それから7年余、堤防を歩きながら目の下に広がる下町の家並を眺め、ある時は台地の起伏や石段に息を弾ませ、あるいはビルの谷間を陽射し恋しく、おもに東京の下町を中心に

年ごとにコースを変えて歩いた。不忍池の弁財天のような名の通った札所ではきらびやかな初詣姿に目を楽しませ、公園があれば日向ぼっこの一休み。記念館や資料館を見学しては見聞を広め、下町に多い震災や大空襲の慰霊碑で昔日に思いをさせた。饅頭屋があれば誰かが買ってみんなと分け合い、列があれば並んでコロッケをほおぼる。せいぜい20人足らずのグループだが先頭からしんがりまで1キロ近く延びることもある。でも札所での記念写真では欠けているメンバーはいない。

お詣りを終えての新年会が楽しい。旧吉葉山部屋の稽古土俵を囲んでちゃんこをついたり、柴又七福神では川千屋で鰻、下谷七福神では笹の雪で豆腐

料理で舌鼓を打った。懐に響かず、美味しく思い出になるものと、宴会担当の幹事さんにはいつも苦労をかけている。

平成最後の初詣、翌年は令和初の、といしか七福神巡りも七回を重ねた。丁度72歳の生まれ歳でお開きとも考えたが、まだまだ若いし元気との仲間の声が多く、新型コロナの中、来年も計画中である。

●昭和43年卒

伊藤 三平

「コロナ禍」

同期会日程を11月と決めたのは1月。春先のコロナ騒動時には11月になれば大丈夫だろうと樂觀していたが、7月の第二波で認識を新たにして中止を決めた。

2年前にも会っているし、節目の年でもない。同期会は会って、話をするのが楽しいのである。「密」を避けては面白くもない。参加する方だって怖々となり、ご家族が出席に反対する可能性もあると思う。

37回の開催を続けてきた春秋のゴルフコンペ(コンパニオンも

呼んで騒ぐ昭和の宴会付き)も、恒例行事化していたクラス会も中止だ。

地域の各種会議に、自治会長だからと言うだけで委員にされているが、軒並み「書面決議でお願いします」だ。市の事務局部署に「書面決議で済むような会議など、そもそも不要の会議なのだ。充て職から外せ」と毒づいている。

可哀想なのは大学生だ。幅広い人的交流が人間の成長に資するのは、幕末に江戸の剣術道場で過ごした志士でも実証されているし、全共闘世代で授業が潰された我々は痛感している。

東日本大震災にも驚愕したが、今度のパンデミックにも驚いた。この調子では富士、浅間の大噴火や、戦争が起きて巻き込まれることもありえるのかもしれないと思いついて始めている。

●昭和44年卒

森 茂

『フラッシュバック70年』

「走馬灯のように」は卒業の挨拶でよく使われる言葉です。

想えば、千葉高卒業の年、昭和四十四年は、学生運動の高ま

りの中、東大入試が中止となりました。「東大に入るつもりだったんだが入試が無くてね」というのが、飲み会での洒落ネタでした。

大学を卒業する頃は、オイルショックをきっかけに高度経済成長が終焉を迎え、就職戦線異状あり!の世情でした。

それぞれの職場で勤めた40年程の間に昭和から平成へ。振り返れば長かったような、楽しかったような、各人各様の感慨と思いつく満載の年月であったに違いありません。

還暦を迎えた平成二十三年三月には東日本大震災と原発事故という今なお復旧し終わっていない未曾有の大災害に遭遇したのです。

そして令和二年。「古稀」記念同期会は、コロナウィルスの禍中であって来年へ延期と相なりました。

これからは、喜寿・傘寿・米寿・卒寿・白寿等々、寿命と相談しながら齢を加えていくことになります。命に関わる「命こそ宝」という言葉、また校歌にある「富士の高嶺のすなおさは、われら健児の生命なり」を、老いて一層大切にしながら日々を過ごし

ていきましよう。

※古稀記念の第七回同期会
は令和三年十月二十四日を予定
しています。コロナが鎮静
化し、皆さんと元気で会
いできることを祈っています。

●昭和47年卒

澤田 梅子

毎年欠かさず参加していま
す全体同窓会を、令和2年は
急用ができ、残念ながら欠席
してしまいました。後日、送
付頂いた同窓会報で、林孝二
郎新会長の就任を知りました。

6年前の同窓会で、霜礼次
郎元同窓会長の退任にあたり、
壇上で花束贈呈をさせて頂い
たのが、つい先日の様な気がい
たします。鈴木前会長、本当
にお疲れさまでした。ありが
とうございました。

林会長とは趣味のバーカッ
ションサークルでも長くお付き
合いを頂いており、次回同窓
会でお会いできるのを楽しみ
にしておりますが、コロナ禍
で中止と知り、誠に残念です。

私達昭和47年卒同期会は独
自にホームページを持ち、メー
リングリストで、連絡を取り

合っています。2年に一度、同期
会を開催しており、令和2年は
10月に開催の準備をしておりま
したが、やはりコロナ禍で止む
なく延期となっております。毎
回百名近くの同期生と数人の来
賓の恩師との楽しい会がいつ又
開催できるのか考えると残念で
なりません。

高校を卒業して、もうすぐ40
年という月日が過ぎようとして
います。気力体力は、18歳の時
とは比べものにならない位弱っ
てきてはいますが(笑)可能な限
り、元気で長生きを目標に頑張
りたいと思います。

来年、同窓会報が発行される
頃には、延期している47卒同期
会が開催できる様になっている
事を心から願っております。

●昭和50年卒

園 部 創

令和元年10月に同期がまた一
人逝った。卒業アルバム(3Fク
ラス写真で私の隣にいた石田康
治君だ。彼は高校時代から体が
大きく、どこにいても目立つ存
在だったが、根は自然をこよな
く愛する優しい男だった。卒業
後は一緒に八ヶ岳や穂高に行っ
たものだ。千葉高同窓会には私

より1年あとの2003年2月
の創立125周年記念祝賀会兼
同窓総会から参加するようにな
った。

勿論、学年同窓会にも必ず出
席した。いつも楽しそうに笑っ
ていた石田君を思い出す。先日
千葉高同窓会事務局から、石田
君の遺言で同窓会へ多額の寄付
があったことを聞き、驚かされ
た。彼の千葉高愛、千葉高同窓
会愛の深さに唯々感動した。

令和3年の秋は、還暦幹事と
しての千葉高同窓会と2次会で
学年同窓会を実施した2017
年2月から5年ぶりに第6回学
年同窓会を開催する予定だ。ウイ
ズコロナ下でどのように開催す
るのか、ワクチンの普及に期待
をしながら慎重に検討している。

無事に同窓会が開催できたと
きは、石田君を偲んで彼が好き
だったジャズナンバーをBGMに
流したい。

●昭和54年卒

加藤 則子

(旧姓 齋藤)

3月から在宅勤務が続き、運
動不足解消のための散歩で、
時々、千葉高まで足を延ばして



そう、昭和54年卒は、学
年の多くが、オリンピックク
イヤーとなるはずだった
2020年に還暦を迎えま
した。

還暦の年は、同窓会総会・
懇親会(以下葛城会)の幹
事学年の年でもあります。
東京オリンピックで、日
本中が盛り上がった後の葛
城会は、例年に勝るとも劣
らない盛会が予想され、幹
事学年として、それに応え
るべく、着々と準備を進め
ていました。

昨年、学年幹事長池田氏
から報告しましたように、
5年前から、毎年1月3日
の定例会と隔年の夏に学年
同窓会を開催し、50名ほど
が集まり、旧交を深め連絡
網の輪を広げてきました。

今年の夏は、幹事団を結成し、
幹事学年として結束を固め、葛
城会に向けて、さらに準備を進
める予定でした。

状況は一変し、葛城会中止の
報を受け、残念ですが、少人数
の集まりですら気を使い、幹事
会開催もままならぬ中、ギリギ
リまで開催に向けて検討をされ
た同窓会常務役員の皆様、あ
りがとうございました。

います。

3月終わりには、部活動も中
止でひと気のない静かな学校
で、図書館前の桜が奇麗に咲い
ていました。

暑かった夏、青々と茂る中庭
の大きな木、在学中には、そん
な大きな木があった記憶があり
ません。

考えてみれば、卒業してから
40余年、木だって大きくなるは
ずです。

一日も早く、「日常」が戻り、葛城会が、開催できることを祈るばかりです。

●昭和61年卒

幹事 増田 淳

コロナ禍の中で何か特筆すべきことがあったかと言えば、何もない。そりゃそうだろう。まづ以て、イベントもなければ外にも出ない。家族以外、ほとんど誰にも会ってなかったのだから、ドラマの生まれようはずがない。

そんな折、ズームなるアプリが登場し、オンラインで旧交を温める日々となった。どんなに離れていても、互いの無事が確認できるのが嬉しい。誰もマスクをしていないので、相手の表情の変化を楽しみながら素顔で会話することが出来、何だかとても新鮮な気持ちなのだ。...

魔が差すとは、このことを言う。クーラーの効いた部屋で、上半身だけ服を着てパソコンの前に陣取って会話を続けていれば、自然の成り行きで体調を崩す。いわゆる微熱以上の熱、そして咳が一月以上続き、さすがにまずいと思い、過日、オンラインで再会した内科医をリア

ル受診することとなった。「まさか、新型のアレでは?」「その通り、新型の今年の風邪だね」「なんだ、よかった」「いや、世の中で一番怖い病気は、風邪だよ」

いつの時代も医師の意見は明快で、正鵠を得ている。そして、論理的で説得力がある。「今年の風邪は悪い風邪って毎年言うけど、新型なんだから当り前。ワクチンなんか作れないよ。」紙面の都合でこれ以上書けないのが残念だが、風評やムードに流されず、正しく恐れることの大切さを改めて感じた次第である。皆さんも、健康には気を付けてお過ごしください。

●平成12年卒

東 寿浩

我々の代は20世紀最後の年に千葉高を卒業しました。令和2年でちょうど卒業20年に当たります。仕事、子育てと忙しい日々を過ごしている人が多く、集まろうとしてもなかなかタイミングが合いません。とはいえ何か集まりを企画したいと思っていました。コロナ禍で集まることが難しくなっていました。そこで思い切ってZOOMを用いて同期会のオンライン開催

をしてみようと思いつきました。5月3日(日)、15時~22時の間の好きな時間に入室してもらう、という形で企画しました。ただ、この方式だとどの時間に誰がいるかわからないということもあつたのか、結局参加者は十名程度にとどまりました。しかし、その中でも久々の再会や初めて話す人たちもいて、参加者の満足度は比較的高かつたようです。

高校時代の思い出話に始まり、西洋古典を研究している参加者が古代ギリシャにおける疫病の流行とコロナの類似点についての話をしてくれるなど、千葉高卒業生ならではの話題も多く、とても有意義な時間でした。どうしても普段は部活動やクラスで集まるが多く、全体の会となるとまだハードルが高い感じがしましたが、今回の反省を踏まえて少しずつ交流の機会を増やしていきたい、繋がりを深めて行ければと考えております。

●平成18年卒

戸澤 庸子
(旧姓 長尾)

私事で恐縮ですが、先日女兒を出産した。妊婦健診で性別を告

げられた際、最初に湧き上がった感情は「私が女であることで受けた不条理を、この子も受けるのか」という悲しみだった。

学生時代には気付かなかったが、就活や社会人生活では至るところに性別による不文律がある。お茶出しは女性の仕事だったし、男女共同参画についての座談会上司がリングを持ってきたため、女性陣で剥いて配ったこともあった。多忙で休んでいた勉強会に久々に出席したら「主婦生活忙しいの?」と年配男性に笑いながら言われたこともあった。私が男だったらかけられなかったであろうこの言葉による傷みを、私は忘れることができない。

この子が進学、就職するときに、この世界はどうなっているだろうか。高校の友人たちのFacebookページを見ると、医師や弁護士、公務員など、皆がそれぞれの持ち場で生き生きとしているように見える。時折お子さんの写真もあり微笑ましい。頑張っている友人たちなら、友人たちが育てる子供たちなら、この

世界を変えてくれるのではないか。そして私とこの子も、世界を変える力になりえるのではないか。子供の寝顔を見ながらそんなことを考える。女性であることで苦しむ、そんな世界をそろそろ終わりにしたい。

無論、すぐにこの世界が変わることはないだろう。けれど、この子が羽ばたける場所に自分で力や、世界そのものを、変える力を身につけられるよう、親として見守っていきたいと思う。

【会報送付希望の方へ】

同窓会報が卒業生と母校の共通話題となるようお送りします。ご希望の方は、同窓会に氏名・卒業年・ご住所をご連絡ください。

送付申込はホームページからお願い!!

●個別送付のご寄付は下記宛てにお願いします。

ゆうちょ銀行 00140-6-336678

加入者名 千葉県立千葉高等学校同窓会

事務局 〒260-0853 千葉市中央区葛城1-5-2 千葉高校内

☎043-239-5550 FAX.043-239-5551

定時理事会報告

定時理事会については、三密を避けて母校講堂での開催なら部活動可能かと準備しましたが、緊急事態宣言下でやむなく中止いたしました。

定時理事会に出席の多数により議決したことなどを総会で報告すると同窓会規約にありますので、今回は特例として、開催通知に対して出席もしくは欠席連絡のあった理事に資料を郵送し、議決事項への同意を確認することといたしました。あわせて追加情報を加えて、同窓会報で報告いたします。

令和2年度と同窓会計はこの頁掲載の決算書のとおり、収入では総会幹事学年だった昭和53年卒から49万円の寄付があり、多くの年次から広く寄せられた会報寄付金は86万円を超えました。この寄付金には、百周年記念誌「創立百年」希望者への送付分(36冊72千円)を含みますので、会報寄付としては幾分少な目ですが、続けて寄付をいただく方々もいます。

支出の面では、事業費ならびに運営費ともに減少しましたが、母校支援金として、多数の

在校生が全国大会そのほかでの部活動に関わる支援を行うため、令和2年定時理事会での予算承認を受けて、母校に百万円を拠出しました。

令和3年の予算では、やむなく中止となった成人記念同期会、状況が整えばぜひとも開催したいと希望があり、今後の同窓会活動のためにも重要なステップ

と考えますので、何らか開催支援できるような予算措置をいたします。またコロナ禍が収束し、軒並み中止となった同窓会集会が多

数開催されることを期待し、また母校に関わる活動も再開されると想定し、予算計上しております。ご理解ご支援をお願いいたします。

議案2

2020(令和2)年度 同窓会会計決算書

令和2年1月1日～令和2年12月31日

1. 収入の部

総額 5,696,469 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
繰越金	2,731,954	2,731,954	0	
同窓会入会金	1,617,000	1,608,500	-8,500	
同窓会費等	0	0	0	
寄付金	300,000	490,000	190,000	※1
会報寄付金	1,000,000	866,000	-134,000	
雑収入	46	15	-31	預金利息
計	5,649,000	5,696,469	47,469	

※1 千葉高昭和53年卒業生様より490,000円の寄付をいただきました。

2. 支出の部

総額 3,834,117 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 事業費	3,215,000	2,332,033	882,967	
卒業記念費	150,000	132,616	17,384	卒業証書ホルダ
会報発行費	565,000	563,200	1,800	同窓会報49号印刷
会報配布費	720,000	740,485	-20,485	同窓会報個別49号発送
卒業生講演会費	150,000	0	150,000	高校総合学習
学校活動振興費	100,000	20,000	80,000	中学校社会人講演会
委員会活動費	50,000	0	50,000	委員会打ち合わせ
支部援助費	300,000	30,000	270,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	680,000	565,232	114,768	成人記念同期会
名簿管理システム整備費	500,000	280,500	219,500	名簿管理システム維持
(2) 運営費	1,090,000	502,084	587,916	
会議費	120,000	74,261	45,739	理事会・常務役員会
印刷費	100,000	126,221	-26,221	総会理事会資料等印刷
通信費	300,000	225,308	74,692	総会・理事会案内はがき・電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	0	150,000	会長渉外費
事務局関係費	250,000	39,574	210,426	ホームページ維持管理・事務用品
事務局整備費	100,000	0	100,000	事務局通信機器等整備
雑費	20,000	36,720	-16,720	振込手数料・入会金返金等
(3) 母校支援金	1,100,000	1,000,000	100,000	部活動支援
(4) 予備費	244,000	0	244,000	
計 (1)+(2)+(3)+(4)	5,649,000	3,834,117	1,814,883	

3. 差引残高 (次年度繰越金)

総額 1,862,352 円

1,862,352

4. 同窓会基金の部

総額 21,541,342 円

区分	令和元年度末残額	令和2年度末残額	増減	備考
基金	6,000,000	6,000,000	0	千葉銀行定期
清水基金	10,098,960	10,099,816	856	千葉銀行定期 利息856円
130周年教育環境整備基金	4,153,387	4,153,421	34	千葉銀行 利息34円
130周年記念名簿会計	1,261,093	1,288,105	27,012	名簿販売27000円、銀行利息12円
計	21,513,440	21,541,342	27,902	

以上、報告いたします。

令和2年1月15日

監査の結果、適正であったと認めます。

令和2年1月18日

会計：伊藤 夢

橋本 麻紀

監査：山本 康昭

小澤 晃

山田千代子

葛城人脈 ⑥

佐々木 俊介さん
(平成12年卒)
佐々木(産形)麻美子さん

千葉高が創立されて140余年。葛城台から数多の卒業生が巣立っていったが、この「葛城人脈」では、今まさに活躍している卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流に迫る。今回は同級生夫婦の物語である。聞き手は夫婦の同期、東寿浩(平成12年卒)

3年間同じクラスに

——高校時代の同期へのインタビューは初めてです。ちよつと緊張しますが(笑)、よろしくお願いします。
佐々木俊介(以下、俊) よろしくお願ひします。
佐々木(産形)麻美子(以下、麻) よろしくお願ひします。

——3年間同じクラスだったと。
麻 そうなんです(笑)。閣下(注:佐々木俊介氏のニックネーム)とまた同じクラスになった!と。
——当時はどういう関係でしたか?
麻 浮いた関係ということではなく、どちらかというとライバルという感じでした。お互いいつもクラスで2位、3位を争っているような感じだったので。

——す、すごいレベルの話だ。

俊 テスト前になると勉強のことで電話がかかってきて、当時は携帯電話もそんなに普及していないころだったので、親もよく覚えていました。それで、付き合うことになったときに親に話すと、「あ

あ、あの子」となり(笑)。

麻 あの頃って同じくらいの成績だとライバルという感じが強くて、負けたくない気持ちが強かったりしがちですけど、一生懸命勉強を教えてくれました。おまけにお互い3年間同じクラスだった唯一の人だったので、誰よりも閣下のことは知っている、という自負はありました。勉強だけじゃなくて文化祭実行委員を頑張っていて、クラスのまとめ役をずっとやってくれていたので。

部活動と文化祭

——部活動の思い出はどうですか?

俊 化学部、コンピュータ研究部、将棋部を掛け持ちしていました。化学部で白衣を手に入れたら、これは便利だと思つてずっと白衣を着ていました。

——そのイメージが強いかも(笑)。白衣を着る頃から閣下と呼ばれるようになったんでしたっけ?

俊 いやあ、どうだったかなあ(笑)。何となく言われるように

なったような…。コンピュータ研究部ではゲームを作成して文化祭で配ったりしました。将棋部では2年、3年と全国大会に出場したのがいい思い出です。

——全国大会!

俊 時々将棋部に強いメンバーが集まる世代が有つて、当時はそうした黄金時代の一つでした。三宅義蔵先生のご指導も大きかったですね。

麻 私はバドミントン部と山岳部でした。バドミントン部は練習熱心で、ずっと一緒に練習していましたね。忙しい今でも、バドミントンをやろうということにはならないものの、何かにつけてよく集まるいい仲間です。

——運動部の掛け持ちが大変だったのでは?

麻 バドミントンの練習は平日だったのですが、山岳部の練習は各自で、山に行くのは休日だったんです。バドミントンの練習で山岳トレーニングも兼ねることができたので、うまく回っていました。

——文化祭はどうでしたか?

俊 2年生のとき、クラスで物理実験をやることになり、リサージュ曲線を描く巨大ブランコを3階から吊るして中庭に作ったことが一番の思い出ですね。先生がよく許してくれたなあ(笑)。

——何か特別な交渉でもしたとか?

俊 いや、そういうこともなかったですが、先生は調整で大変だったと思います。

——実験の地味なイメージを払拭し、すごい企画でしたね。

勉強の秘訣

——お二人はそれぞれ東大、医学部に現役合格をしています。受験勉強のコツなど、何かありましたか?

俊 特に受験のための勉強を頑張ったということはなく、日々の勉強をやっていたという感じです。

——達人の発言ですね(笑)。

麻 私は、勉強は質も大事だけど、とにかく量が大事だと思つていたので、たくさんやりました。英語は音読を繰り返していましたね。

俊 英語は実際に使うのが一番というところで、プログラミングのための資料を読むのに使つたりしていました。あと、トレーディングカードゲームのMagic: the Gatheringのカードやルールブックを読んだり。

——お二人の力を見せつけられたのは、化学という印象です。実験レポートの優秀例でよく採り上げられていましたね。

俊 化学の実験レポートを書くために必死になって色々調べていました。完全に高校のカリキュラムを超えていたなあ、と。

——峰島不可止先生の授業ですね。

麻 毎回大量のレポートだったの、読むのも大変だったかと…。

俊 千葉高の勉強をしつかりやっていたら、特別な受験勉強をしなくても大丈夫だと思ひました。——うつ、耳が痛い(笑)。

麻 私は推薦でした。学校の成績面は基準をクリアしていたので、推薦用に面接対策などをしていました。

——もともと医学部志望だったのですか?

麻 医学部というより、東京女子医科大学に行きたかったんですよね。山岳部で北アルプスに行ったとき、女子医大のワンダーフォーゲル部と一緒にいる機会があつて、それで興味を持ちました。ただ、学費がネックで、育英会の奨学金に加えて、給付型の奨学金もいくつか組み合わせることで何とかなる算段をつけました。

——なるほど…。

麻 女子医大は特殊で、在籍者のほとんどが私立の中高一貫校出身者で占められていて、100人中、公立高校出身者は私を入れて3人しかいませんでした。

——3人!

麻 学費の算段がついたとはいえず、実際には厳しい道です。給付型の奨学金を得続けるために一定の成績をキープし続けなければなりませんし、家庭教師のアルバイトを掛け持ちして、とにかくハードな学生生活でした。実は、推薦というところで早めに大学に受かったの、その直後から家庭教師を始めるといふ(笑)。

——確かに、一番受験勉強の記憶が新しいタイミングですもんね。

大学時代の思い出

— 大学生活のことを詳しく教えてください。

俊 ロボコンに打ち込んでいました。東大RobotTechとしてNHK大学ロボコンに初出場したところから、強豪チームになっていく過程を経験でき、最後は部長・チームリーダーになりました。

— 貴重な経験ですね。

俊 できて間もないサークルだったので、色々好き放題やれるかなと。大学院では半導体の設計検証技術を研究しましたが、学会で海外に行けたのもよかったです。

麻 私が結局入ったのは山岳部です。何となく棲み分けがあり、冬山に登る山岳部を選びました。そうして四国や北海道、ニュージーランドにも行きました。私も部長でした。



Profile

佐々木俊介 (ささきしゅんすけ)

千葉高時代は将棋部・コンピュータ研究部・化学部に所属。東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻修士課程修了後、東芝に就職。組込みソフトウェア、オペレーティングシステムや開発ツールを専門に研究開発に従事している。趣味は料理。

佐々木(産形)麻美子 (ささき(うぶかた)まみこ)

千葉高時代はバドミントン部・山岳部に所属。東京女子医科大学卒業後、初期研修を経て東京女子医科大学第二外科(消化器・一般外科)入局。現在は赤羽東口病院勤務。博士(医学)。

就職・結婚・育児

俊 大学院修了後、東芝に入って引き続き半導体の研究に従事して

います。就職のタイミングで、私は会社の寮で横浜の磯子に引っ越し、妻は実家が逗子に引っ越し、同時に神奈川県民になりました。そういうこともあって、2人で飲みにも行くとか、という話になりました。それから時々一緒に飲みに行くようになり、私の方から告白しました。

— ほんとにすごい縁ですね(笑)。

麻 私の方は初期研修中だったので、女子医大の近くに一緒に住むことになりました。ただ、結婚してからもお互い自分の仕事があったので、特に生活が変わるということもありませんでした。私は外科を選んだのですが、医局の派遣で色々病院を転々として、その合間に博士号も取得しました。ただ、子どもが生まれると生活が一気に変わりますね。

— そうですね。

麻 2019年2月に男の子が生まれました。幸い保育園が早く見つかり、5月から保育園に入れて職場復帰しました。保育園に子どもを預けて働くこと、以前のように昼夜を問わず働くということが

できなくなるので、効率よく仕事をするを意識していますが、夫に支えてもらっていると思っていま

す。俊 何かあったら家庭優先というスタンスですね。幸い、職場もその辺は理解があるので。

— コロナ禍での生活や子育てはどうですか? 医療従事者にとつては特に大変な日々だと思いますが…。

麻 そうですね、私の勤務先ではコロナ患者も受け入れているので…。保育園の送迎は夫にお願いして、私は帰宅したら子どもに触れる前に必ずシャワーを浴びています。あと、公園の遊具などもなるべく触らないように気をつけています。

俊 在宅勤務になって、楽になった面もあります。片道1時間以上かかっていた通勤時間が無くなったのは大きいですね。ただ、4月上旬に保育園が休園になって、それから会社で臨時休業に入るまでの1週間ほど、臨時休業明けで保育園が再開するまではキツかったですね。

— あの時期は大変でしたね。

俊 朝晩子供が寝ている間に在宅勤務をして、昼間は子供の面倒を見る合間に仕事をしたり、おんぶして昼寝させている間に会議をしたり。

麻 祖父母にもあまり会えなくなりましたね。

— 戦力として頼れないのも辛いですね。

後輩へのメッセージ

— 今後はどういうことをやってみたいですか?

俊 そうですね、これがやりたいという明確なビジョンではないかもしれませんが、今やっている仕事で社会の基礎になる技術の開発なので、世の中から求められるものにきちんと応えていきたいと思っています。

麻 私は、医師を続けていきたいと思っています。後で気づいたのですが、医師になることより、医師であり続けることの方がずっと難しいですね。「医者」にだけはななければよかったと思うことがないように、頑張っていければと思っています。

— まさに、日々勉強ですね。最後に、後輩へのメッセージをお願いします。

麻 千葉高で勉強できる喜びを知って欲しいと思っています。やっぱり、千葉高って本当にすごく優秀な人が集まっているし、この時間を大切にして勉強を頑張りたいです。夫にも、「あなたが東大卒だから結婚したんじゃないって、千葉高卒だから結婚した」とよく言っています(笑)。

俊 高校時代の繋がりを大切にしたいですね。いっどこで仕事やら何やらで再会するかもしれないですし、それがきっかけで結婚するかもしれないです。

— オチがつきましたね(笑)。ありがとうございました!

美術館の倉庫に残る卒業制作作品の回収にご協力を！

美術部の同窓生が卒業生時に制作した作品が、現在も記念館内の倉庫に多数収納されているのが判りました。(左写真)直射日光が入るガラス窓のある部屋で、もちろん空調設備もなく、劣悪な環境下にあります。

今後、作者による作品の引き取りが必要になるかと思いますが、学校としては具体的なことは検討中と聞いています。

同窓会は、今後とも学校の運営に対し協力する所存でいますので、関係の同窓生、心当たりのある同窓生の皆様は、是非ご連絡いただきますよう、お願いいたします。

同窓会のホームページの情報連絡から、またはFAXよりご連絡くださるようお願いいたします。



◆学校の近況報告

編集後記に代えて

同窓会広報委員長 田中航祐

(平成20年卒)

千葉高校同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。一職員として、今年度の学校の様子を個人的な視点から改めて振り返りたいと思います。校長の挨拶にもありましたとおり、通常の学校生活とは大きく異なる1年間を過ごしてきました。私は1年生の担任を務めておりますが、マスクをつけていない1年生の顔をはっきりと思えない浮かべるできませんでした。1年生の生徒たちにとってもマスクをつけていない私の顔はあまり



りなじみがないのではないかと思います。非常に不思議な感覚に襲われると同時に、いったいいつになったら、マスクを外した生活ができるのだろうか、生徒たちの「顔」を見ることができのだろうか、と悶々とする日々です。勉強、部活、行事、友人や先生との関わり、など学校生活を謳歌し、学校が好きで教員になった私にとっては、こんなにも様子が異なる学校生活を突きつけられるのは辛いことでした。また、生徒たちの辛さを考えることも、また心の痛むことでした。

ところが、辛い思いや残念な思いをしているかもしれない、生徒たちこそが前向きに、一生懸命に、日々を過ごしているではありませんか。いろいろな制約がある中で、文句ひとつ言

わず、自分たちなりに学校生活を楽しむ姿、真剣に授業に取り組み姿にハッとさせられることがしばしばありました。自分が疲れて愚痴をこぼしている時に生徒たちのそうした姿を見て、己の未熟さを思い知らされます。

長期間の休校という未曾有の事態を経験し、改めて学校の価値について思いをめぐらせることもありました。とかく、こういうことが達成できた、あるいは、こういった進路に進むことができた、などと、何かの達成や結果を中心に学校の価値を語る文脈が多くなりがちですが、休校が終わり、生徒たちが仲間と学校生活を作っていく様子を間近で見ると、学校生活において達成したところ、ではなく、形がどうあれ学校生活そのものに価値があるというところを改めて感じさせられます。1日1日を大切に過ごしていきたいです。

今年度、行われた行事の写真(体育大会、1年生の合唱コンクール、2年生の鎌倉校外学習(修学旅行の代替)をご紹介します。生徒たちの様子が伝われば幸いです。

葛城だより

◎令和2年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

瑞宝中綬章 林 正寿 (昭36)
旭日重光章 花田 力 (昭37)
瑞宝双光章 熊野明夫 (昭43)
旭日双光章 麻生忠男 (昭44)
旭日小綬章 箕輪正美 (昭44)
(敬称略・卒業年順)

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

一柳博信 (昭19) 3年1月23日
伊藤敏隆 (昭22) 2年4月21日
(定昭24)
木村正信 (昭28) 2年5月30日
増田 豁 (昭33) 3年1月28日
田那村 宏 (昭36) 2年1月19日
江村 明 (昭40) 2年4月1日
(敬称略・卒業年順)

◎寄付者(同窓会宛)

心より御礼申し上げます。

●昭和53年卒同期会

(令和2年度総会・懇親会幹事年度)

490,000円

(敬称略・順不同)

題字揮毫 辻元大雲氏

本名：洋一 昭和37年卒